

廃棄物最終処分場候補地概況調査に対する意見書

金子 栄 廣

(基礎調査に対する意見)

- 1) 受入廃棄物量は、先行している明野処分場と比較して妥当な受入廃棄物量が設定されていると考えられます。しかしながら、施設の稼働が平成26年度であり、埋め立て期間も15年と長いこと、今後の3Rの進み方を勘案しながら受入廃棄物量の把握を行っていく必要があると考えます。
- 2) 概況調査の段階としての候補地概況把握は概ね適切と考えます。(詳細な候補地およびその周辺の状況把握は生活環境影響調査等に含まれるものと考えられるからです。)
- 3) 基礎調査に基づく候補地としての評価も概ね妥当なものと考えます。ただし、蟹沢川の付け替えに関しては、流路変更の技術的可能性だけしか考慮されていません。処分場の安全性を考えると、地下水への水理学的影響も考慮するのが望ましいです。

(地質調査に対する意見)

地質は専門外ですが、気になった点がありますので記述させていただきます。

- 1) 報告書の写真から晴天時での調査だったと考えられますが、晴天時でも斜面での水のしみ出しが確認されています(例えば、P-12)。雨天時にはこのような状況が多数見られるのではないかと推察されます。そうだとすると、処分場の底面・法面の保護のため地下水排水対策が極めて重要になります。今後、地下水の湧出状況について、雨天時の湧出状況を含めた詳細な調査を行うことが必要と考えます。
- 2) また、天候以外の要因として、蟹沢川を付け替えることによっても地下水の水理学的状況が変化することが予測されます。今後、河川を付け替えることの影響についても把握しておく必要があると考えます。

(環境調査に対する意見)

- 1) 各種生物に対する文献調査ならびに現場踏査は適切になされていると考えます。
- 2) 「現況調査に基づく候補地としての評価」では、さらなる調査の必要性や重要生物種等への配慮について言及しています。ここに記述されていることは、今後この計画を具体化する過程で参考にすべき点を含んでいると思います。
- 3) しかしながら、ここでさらなる調査の必要性に触れているということは、さらに調査を行えば、処分場の建設・運営によって多大な影響を受ける生物種が見つかる可能性があることを意味しています。今後の調査の結果をみながら計画の見直し等が図れるような柔軟で慎重な対応をお願いしたいと思います。

(総括)

- 1) 上述のとおり、地下水の状況について疑問に思える点がありますが、専門外ですので、この部分についての妥当性について言及することは控えさせていただきます。
- 2) 1) 以外の部分では、今後の調査(生活環境影響調査など)によらなければわからない部分もありますが、概況調査の段階としては妥当な内容になっていると考えます。また、「現段階で支障ないと判断できる」との結論も「現段階までで支障となる事項は見いだせなかった」という意味で納得できます。
- 3) 「5.1.4 適性確認結果」の後半に記されているとおり、さらに障害事項の有無を確認することが重要です。当然のことではありますが、計画の進捗と平行して適切な調査が行われ、その結果を参考に適宜計画を見直すことを念頭に置いていただき、より安全、安心な計画遂行が図られることを期待いたします。